

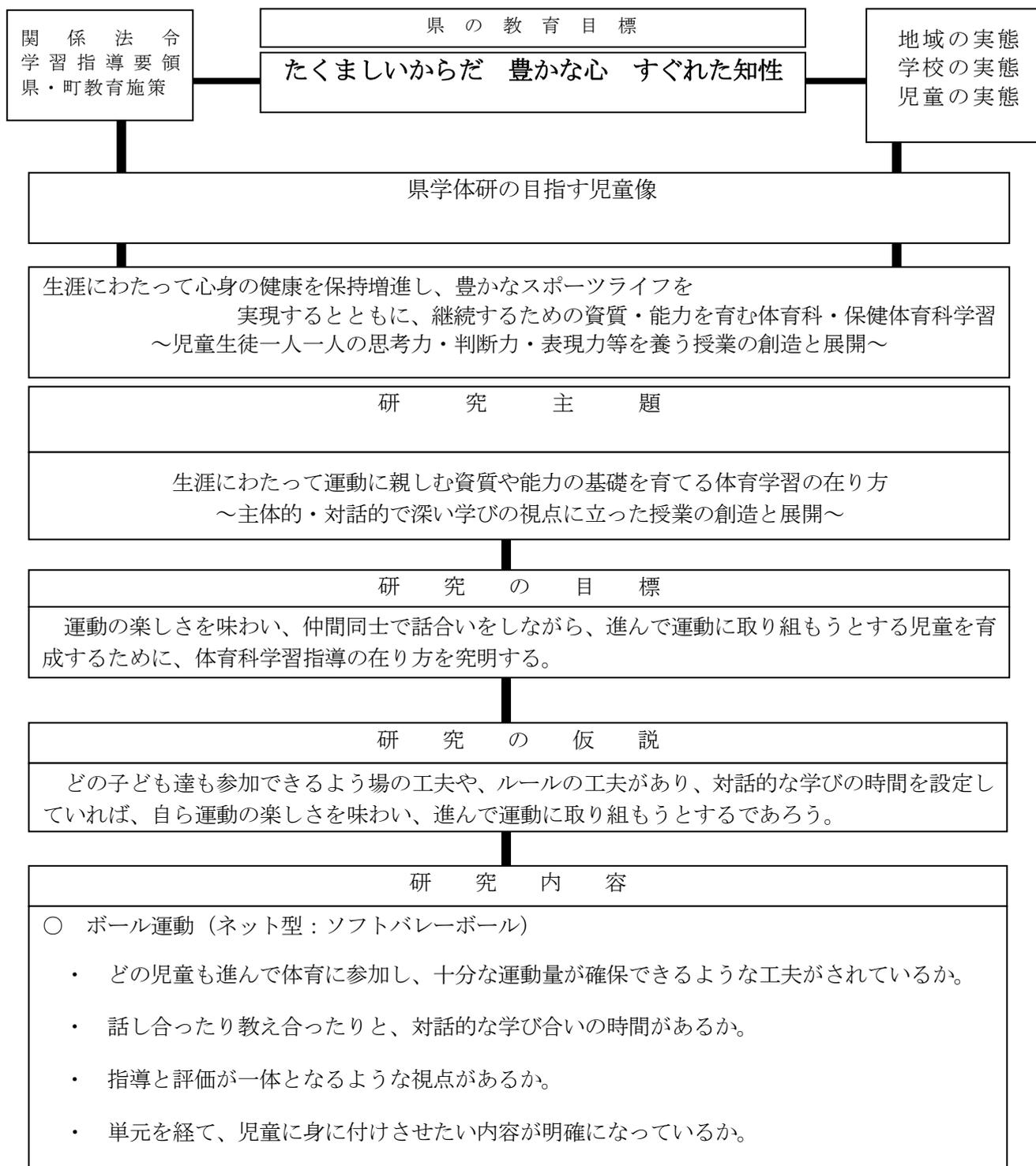
[10] 児湯郡小体連 (学校数15校 児童数3385名)

【研究のあゆみ】

1 研究主題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方  
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 研究の全体構想



### 3 研究の実際

#### (1) ボール運動（ネット型：ソフトバレーボール）について

##### ① どの児童も進んで体育に参加し、十分な運動量確保のための工夫

- 扱うボールをビーチバレーボールにする等、教具や場の工夫はもちろん、ゲームのルールを簡略化することで、どの児童も進んで学習に参加できるようにした。さらに、学級の実態に応じて、4・5人チームを編成し、全員が参加できるよう2人1組で基礎練習を行うことで、仲間と連携しながら運動の楽しさや喜びに触れることができる工夫を行った。また、アタック練習時には、カメラのタイムシフトカメラ機能・スローモーション機能を活用し、自分のアタックの様子を即座に確認できるようにすることで、運動量を確保した。

##### ② 話し合ったり教え合ったりと、対話的な学び合いの時間

- 1単位時間の中に、対話的な学び合いの時間を設定した。この時間が深い学び合いの時間になるように、アタックのポイントを3つにまとめて示すことで、児童に話し合いの視点を与える工夫を行った。また、録画した動画を確認しながら話し合うことで、児童間で具体的な動きやフォームのアドバイスができるようにした。

##### ③ 指導と評価が一体となるような視点

- 単元や本時のめあてが達成できたかどうか評価を行うために、毎時間ワークシートと活動の観察を中心に評価を行った。ワークシートでは、技能面の他に共生の視点も設け、楽しく取り組むことができたか・チームで協力して活動することができたか等も見取ることができるようにした。

##### ④ 単元を経て、児童に身に付けさせたい内容の明確化

- 児童に対しては、単元の始めにオリエンテーションを行い、どのような運動に取り組んでいくのかを確認し、ゴールイメージをもたせることにした。
- 単元の3つの目標を身に付けさせるために、単元前半で基本的な動きや技能を習得させ、後半でゲームに勝つための作戦を選ぶことに重点をおいて指導することにした。



### 4 研究の成果と課題

#### (1) 成果

- 児童の実態や運動の特性を踏まえて、ルールや道具、場の工夫が行われたことで、どの児童も主体的に運動に取り組み、仲間と連携しながら運動の楽しさや喜びに触れることができた。また、教師の発言も最小限で運動量が十分確保されていた。
- 授業の初めに、1単位時間の目的を明確にし、アタックのポイントを3つにまとめて示すことで、児童がポイントを意識しながらアタック練習に取り組むことができていた。

#### (2) 課題

- ICTを使うことの難しさがあつた。カメラ機能を使う際、カメラの場所をコート内に固定したことによって、児童がカメラを気にかけながら活動する姿が見られた。また、対話的な活動の場面では、児童が自分たちの動画に注目しすぎるあまり、十分に話し合えていない姿が見られ、運動量確保とのバランスも今後考える必要がある。
- 児童の実態に応じてルールを簡略化して実践したが、学習の内容に応じてルールを変更したり、授業の最後にその日のベストプレイヤーを紹介する時間等を確保したりして、その時間で身に付けた力を感じさせる内容があっても良かったのではないかと。

### 5 参考資料

- 小学校学習指導要領解説 体育編